

【様式 3】

小松市教育目標

生涯学習時代にふさわしく、人間愛を礎とし、自発的に学び、文化を創造し、思いやりの心を持った、明るく元気あふれる市民の実現をめざす。

第1章 自然に親しみ、人間愛を育てる。

- 1 人権を尊重し、敬愛と感謝の心を育てよう
- 2 自然や限りある資源を大切にし、住みよい環境をつくろう
- 3 社会参画をすすめて、市民としての自覚を高めよう

第2章 すこやかな心とからだを育てる。

- 1 かけがえのない命を大切にしよう
- 2 スポーツやレクリエーションに親しみ、健康増進につとめよう
- 3 忍耐力を培い、自立の心を育てよう

第3章 高い知性と創造性を育てる。

- 1 自ら学ぶ意欲を養い、思考力と表現力を伸ばそう
- 2 科学的な探求心を深め、正しい判断力を育てよう
- 3 歴史と伝統を重んじ、文化の継承と創造につとめよう

第4章 広い視野に立って、郷土愛を育てる。

- 1 ふるさとに親しみ、豊かな情操を育てよう
- 2 勤労と奉仕を重んじ、連帯感を深めよう
- 3 広く海外との交流をはかり、国際性を高めよう

平成23年度

学校経営計画及び学校評価計画書

小松市立 安宅中学校

学校長 坂谷 敦子

1 経営理念

かけがえのない存在である生徒一人ひとりが、自らの将来に夢や希望を持ち、安心して学ぶことができる教育環境を整備し、その資質や持てる能力・個性を伸ばし、充実感のある学校生活を送ることで、自己教育力の向上、豊かな心の育成、健康や体力の保持増進を図ることのできる学校づくりを目指す。

2 教育目標

「自分を見つめ、目標に向かって努力する心豊かな生徒の育成」

3 中・長期経営目標

(1) 学校の現状

- ① 生徒は素直で明るく、思いやりの気持ちが深く、ボランティア活動にも意欲的に取り組む土壌がある。ただ、1小学校1中学校のため、幼少からの人間関係が構築されており、現状に甘んじてしまうところがある。もっと視野を広げた物の見方や考え方が身につくようにしていく必要がある。
- ② 挨拶や礼儀、規律を大切にし、自己管理・自己コントロールできるようにいろいろな場面をとらえて指導や支援をしている。
- ③ 自分の思いや考えをきちんと表現することに対して自信がない生徒がかなりおり、思考力・判断力・表現力の育成が大きな課題である。学年の発達段階を反映した学習内容の定着や家庭学習習慣の確立に関してもまだ十分とはいえない。小学校との連携を図り、義務教育9か年の育ちの中で学力向上を図っていく展望と方策が必要である。
- ④ 特別支援や配慮を要する生徒へは、教職員相互の理解と連携をもって支援しているが、関係機関との連携も含め、さらにきめ細かな生徒指導体制を確立していくことが望まれる。
- ⑤ 生徒と教職員、地域・保護者との信頼関係は良好である。

(2) 生徒に関する目標

- ① 広い視野で自ら学ぶ生徒・・・・・・・・・・智
- ② 心豊かで、思いやりのある生徒・・・・・・・・・・仁
- ③ 自分で考え、正しく判断し、実行できる生徒・・・・・・勇

(3) 教職員・学校組織等の望ましい在り方

- ① 共通理解と相互の協力のもと、教育目標の実現に向けて、常に組織体として教育活動を営む。
- ② 教職に対する使命感と誇りを持ち、教育の専門家としての確かな力量を備えるよう自己研鑽に努める。
- ③ 豊かな人間性や社会性を備え、生徒や保護者、地域から信頼される教師を目指す。
- ④ 危機管理意識の徹底と教育環境の整備を心がけ、安全で安心できる学校づくりに努める。

4 短期経営目標（今年度の重点目標）

① 組織的な学校運営に関して

- (ア) 主任等を中心として各分掌の機能化を図り、組織体として絶えずPDC Aを意識した学校運営を心がける。
- (イ) 学校安全計画に基づき、教育環境整備や危機管理に心がけ、快適で安心・安全な学校生活を創る。

② 確かな学力の育成

- (ア) 「小中連携で取り組む学力向上プロジェクト」を立ち上げ、学力向上対策の要とし、成果が見える形にまでもっていく。
- (イ) 学年に応じた家庭学習の習慣化と内容の充実を図るために、課題の質・量・方法などを工夫し、習得・定着の程度を確認していく。
- (ウ) 生徒が「わかった、できた」ことを実感することができる授業づくりを心がけ、授業評価アンケート等で現状把握・分析・授業改善に努め、生徒の学習意欲を喚起する。
- (エ) 教科の授業やその他の教育活動を通して、生徒の言語活動の充実を意識し、思考力・判断力・表現力が向上したことを生徒が実感する工夫を心がける。
- (オ) 積極的な授業研究・公開授業を通して指導技術を磨いていき、教師自身が学び合い学習や活用力を発揮できる校内研修会を実践していく。

③ 豊かな心の育成

- (ア) 学級を基盤に、それぞれが自分の役割や責任をきちんと果たし、互いに学び合い、認め合い、高め合える集団づくりに取り組む。
- (イ) 全教育活動の中で、道徳教育の推進に努め、自己の生き方を考え、道徳的な実践力を養う。
- (ウ) 生徒の主体性を育む学校行事や生徒会活動を企画し、参加への意欲向上と達成感・充実感を味わうことで自己有用感を高めることができるような運営を目指す。

④ 健やかな体の育成

- (ア) 自らの健康・安全に関心を持ち、快活な学校生活を送ることができる。
- (イ) 部活動の活性化を図り、体力の維持向上や集団意識の醸成、健全な人間形成を目指す。

⑤ 家庭・地域との連携

- (ア) 学校と家庭・地域が連携して、子どもの学びを支援する取り組みを積極的に推進する。
- (イ) 家庭教育を大切な人間形成の基盤と捉え、効果的な連携を図りながら規範意識の向上・基本的生活習慣の確立を目指す。
- (ウ) 積極的かつ有効な情報公開に努め、信頼される学校づくりを目指す。

